

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 秋山茂則
幹事 和田正敏
会報委員長 佐野寛

No. 9

自分を越えた眼を

LOOK BEYOND YOURSELF

1991~92年度 RI会長 ラジェンドラ・K・サパー

第447回例会 平成3年9月3日(火)晴

- ◇ “君が代”
- ◇ “それこそロータリー”
- ◇ “RI会長テーマソング”
- ◇ 出席報告
会員 67名 出席 52名
出席率 77.61%
前回 8月27日 (修正出席率)97.61%

◇ ビジター紹介 7名

◇ お誕生日祝福
小林夫人(9/3)、鈴木(理)夫人(9/5)

◇ ニコボックス
加藤 大豊君 第46回石川国体夏季大会の愛知県選手団団長として石川県へ行って参ります。
山本 真輔君 ホームクラブ御無沙汰いたしました。
秋山 茂則君 今日の笑顔よろしく。
市原 数男君、久保田 皓君 前回欠席致しました。
上野 保君 前回例会遅刻しました。

- ◇ 和田幹事報告
 1. ロータリーの友9月号と今年度クラブ計画書をお帰りにお持ち下さい。
 2. 次回例会はクラブフォーラムで、例会終了後キャッスルにて和合RC20周年シンポジウムに出席予定の方はお忘れなきようお願いいたします。
 3. 国際奉仕より、フィリピンピネツオ火山災害援助を行いますので、御協力よろしくお願ひします。

◇ バナー紹介
静岡北RC 菅原 宣彦君

◇ 秋山会長挨拶

金融スキャンダルに思う

いま国会で証券金融問題特別委員会が開かれており、証人参考人として野村証券会長はじめ証券金融会社の代表の審問が行なわれています。それを聞いてみると腹立たしいばかり、全く信じられないような悪事が白昼堂々と罷り通っております。先日の中日新聞に某銀行の公表された不正融資は630億ばかりでなく1,000億だったと、関係ノンバンクの職員の暴露発言、そして貸出しに際し預金証書は明日届けるといって帰ったが持って来ない、催促したら今審査に廻っているとのことだった。そうこうしている内に預金は引出されていた。かって滋賀銀行その他でも行内の女子職員による何億円という不正事件があった。不正の実態をみるとき管理の杜撰なことばかりでなく、現場で実務に携わる人間にその気になって不正を仿らかれたら管理職でもお手上げだ、誰も信じられなくなり仕事にもならない。職員1人1人の意識自覚の問題だ。銀行員というと真面目で信用があり、嫁にやるなら銀行員といわれた時代もあった。隔世の感がする。今回の金融事件で暴力団と金融、政治関係の癒着が取沙汰された。日経ビジネスの一文を紹介する。

一連の金融疑惑が噴出した理由は、いくつかの対立の図式を考えると理解しやすい。アングラ世界と経済界それぞれの東西対立、検察・警察という捜査当局間の対立、そして自民党・経世会(竹下派)、内部の竹下(登=元首相)対金丸(信=経世会会長)、小沢(一郎=前幹事長)連合の確執だ。いずれも10月の自民党総裁選で、90年代の日本の政治権力をだれが握るかの問題に収れんしていく。

事件の上部構造は政界の権力闘争だが、下部構造には暴力団などアングラ社会の存在と、

それが肥大化して水面上へ浮上してきた問題がある。日本の政治、経済活動の頂点にまでアングラ社会が顔を出し、巨額のカネが動いて、ヤミ世界に吸い込まれていったという点で極めて異常な事態といえる。

◇講 演

“防災行政無線の話”

千種消防署長

清水 修氏 (紹介 加藤(正)君)



平素は、千種区の消防。防災行政に深いご理解と格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、名古屋市は未曾有の被害を受けた昭和34年の伊勢湾台風体験を原点として防災都市づくりを推進してまいりましたが、近年に至り都市構造がますます複雑化、過密化する中で、東海地震の危険が懸念され、災害要因は拡大の一途をたどっています。こうした中で、災害発生時における応急対策諸活動や、その後の復旧活動を迅速的確にすすめるためには、災害に関する情報の収集、伝達手段である通信連絡網を整備することが必要不可欠であります。このため、本市では、災害対策基本法及び名古屋市地域防災計画に基づき、本市の防災体制に適合する防災行政無線局の整備を積極的に進めています。

次に、本市防災行政無線の概要を述べます。防災行政無線は、その形態により4種類に分類でき、それぞれ次のような機能をもっています。

1. 地区移動系(昭和59年及び60年度に整備完了)
区役所に基地局を置き、区役所及び支所に配置する車載及び携帯無線機や区管内の消防署、土木事務所、保健所などに配置する可搬型無線機との相互間において単信方式による通信を行うものです。
2. 全市移動系(昭和60年度に整備完了)
市役所に基地局を置き、消防局、民生局、土木局などの本庁とその局に配置する車載もしくは携帯又は可搬型無線機との相互間において単信方式による通信を行うものです。
3. 多重固定系(昭和61年度以降整備中)

市役所と各区役所、各消防署、港防災センター及びポンプ施設管理事務所との間で、多重通信路により電話と同様の複信方式で通信を行うもので、平常時には一般行政事務連絡用としても使用しております。なお、千種区役所及び千種消防署については、昭和61年に整備を完了しました。

4. 同報固定系(未整備)

市役所から避難所、広域避難場所などに設置する受信機に対して通信を行うものです。

以上、防災行政無線の必要性とその概要を申しあげましたが、本市では今後も市民の生命、財産の安全を確保するため、防災行政無線の整備を含めた総合的な防災諸施策を推進する所存でございますので、皆様一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、名古屋千種ロータリークラブの益々のご発展と躍進を祈念いたしまして話を終わらせていただきます。

雑誌の窓

「私が7月・8月号の中で特に興味を持って読みましたのは7月号の巻頭に掲載されている上智大学渡部教授の講演でございます。本稿では“日はまだ昇る”と題し、第二次大戦で沈んだ日本の日は戦後奇跡的に昇ったが、20世紀も終わりに近づいてきて、時にはさらに新しい文化創出へ貢献する能力があるのではないかと述べています。これが先に出版されベストセラーになった“日はまた沈む”のパラドックスであることは明らかであります。

本稿の中で特に印象的でありましたのは20世紀の初頭の日本は国際社会に対し大変に謙虚であった。国際社会で非難されることはしまいというものが基本的態度であった。、という件りでした。日露戦争で勝利し、第一次大戦では唯一有色人種として戦勝国に加わった折りでも、日本政府は謙虚な姿勢を崩さなかったとあります。そして昭和に入り、軍部が暴走、第二次大戦の悲劇を迎えたこの時期を例外として、終戦後今日までのこの謙虚さ、出過ぎたことはしないという姿勢は基本的に変わっていないと著者は考えています。経済大国となり、世界の注目を集めている現在の日本にとってこの謙虚さがこれからプラスと働くのか否か、私としても考えてみたい点だと思いました。

担当 奥村登喜朗君

◇次回例会(9月10日)

クラブフォーラム

◇次々回例会(9月17日)

講演 “コミュニケーションについて”

千種区 区長

岩田 勲氏

(紹介 水野(民)君)